

新・向山洋一 実物資料集

第8巻

国語授業を向山洋一はどう創り出したのか
～珠玉の構想メモ～

サンプル版

ver.20210913

※本ファイルはサンプル版です、実際刊行されるものと内容・仕様等が異なる場合がありますことを予めご了承ください。

※図版等の解像度は、インターネットを通じた画面表示に最適化した低解像度のものです。実際の印刷物は高解像度の図版を使用して印刷いたします。

新・向山洋一実物資料集 第8巻 目次

はじめに 向山洋一 1

解 説 伝説の実践家、向山洋一の頭の中を垣間見る珠玉の資料 谷 和樹 6

【映像解説】「雑草のうた」の授業 7

 (1) 構想ノート① 8

 解説コラム1 対比から主題に迫る展開の好例である 10

 (2) 子どものノート 12

 (3) 当時の教科書（平成4年度版 東京書籍「新しい国語 五上」） 18

 (4) 向山洋一 授業記録 6年国語「雑草のうた」1997.9.22 新潟・沢根小学校 20

 (5) 授業当日のメモ 41

 (6) 笥田氏の記録「向山洋一先生の授業」（途中まで） 42

 (7) 構想ノート② 1991.2.9 44

 解説コラム2 子どもの発表内容を受けて瞬時に授業を組み立てる 48

1. 向山型国語基本システムの整理 49

 (1) 基本システムの整理 2003.11.30 50

 解説コラム3 向山氏本人による向山型国語基本システムの整理 52

 解説コラム4 学問研究としての「授業論」は4段階から成る 53

 (2) 講座構想① 54

 (3) 講座構想② 56

 (4) 「話す・聞く」を考える 58

 解説コラム5 「セリフの追加」とはどんな指導なのか 60

 (5) 授業の腕を上げる7つの方法 2005.8.17 61

 解説コラム6 プロフェッショナルの域に辿り着くための道筋 62

 (6) 向山実践入門編の整理メモ 2005.12.12 63

 解説コラム7 検定D表突破、C表突破の峰の高さ 64

2. 向山による国語教育批判 65

 (1) 知性欠如症候群 1996.11.27 66

 解説コラム8 「知性欠如」の教育が子どもを学びの場から逃走させる 68

 (2) 5分間でわかる 69

 解説コラム9 自らの実力を自覚する方法 71

 (3) 教師修業は「内なる斗い」^{たたか}によってのみ成り立つ 72

解説コラム10 教師修業を支える「内なる斗い」^{たたか} 74

3. 向山型国語教材研究法 75

 (1) 言語生活教育の必要性 76

 (2) 談話教育の課題整理 78

 解説コラム11 まずは教師自身がことばの力を磨くことだ 79

 (3) 対話・会話・公話 80

 (4) 対話と問答 81

 (5) 対話から会話へ 82

 (6) 討議の条件 83

 (7) 公話の条件 84

 (8) 討論・ディベート 85

 解説コラム12 指名なし討論実現に至る細やかな指導項目 86

 (9) 戦前の読み方教育への反省 87

 (10) 文章の構造 88

 解説コラム13 国語教育の根本的課題に立ち向かう向山型国語 89

 (11) 「読む」を考える 90

 (12) 音読が黙読に先行する 91

 (13) 教室における読み 92

 解説コラム14 「読み」とは何をどうすることなのか 93

 (14) 教授法と芦田恵之助 94

 (15) 「少年駅伝夫」の分析メモ 95

 解説コラム15 奔流^{ほんりゅう}の如き国語教育の流れを理解する 97

 (16) 学習活動の形態① 98

 (17) 学習活動の形態② 99

 解説コラム16 授業の「準備」を反省するのである 100

 (18) 作文教育（明治、大正、昭和初期） 102

 (19) これからの作文 104

 (20) これからの作文4条件 105

 (21) 作文指導の覚書 106

 (22) 「一日の始めに」授業の覚書 107

 解説コラム17 研究のための研究ではない 108

4. 「オゾンがこわれる」の授業構想ノート 109

 (1) 授業構想メモ 1994.11.8 110

 (2) 発問と指示で授業を組み立てる 112

 (3) 論理を可視化する 114

 (4) 研究協議メモ 1994.11.19 116

 (5) 子どもの反応を想定する 118

 (6) 向山の要約 119

 解説コラム 18 巨大な問題を提起した向山氏の授業づくりに迫る 120

5. 『あかねこ漢字スキル』の誕生と広がり 121

 (1) 法則化漢字学習システムの確立のためにお願い 122

 (2) あかねこ漢字スキル見本 1987.10 126

 (3) あかねこ漢字スキル 1988.4 新発売 128

 解説コラム 19 優れた教材は優れたユースウェアに支えられている 132

6. 国語教育界への巨大な問題提起「漢字文化」の授業 133

 (1) 漢字文化の授業 10 の論点、視点 2001 134

 (2) お手本文化 2003.1.4 136

 (3) 学習の順序 137

 (4) 戦後教育の決算 138

 (5) ことば・文字の意味 139

 (6) 指導の原則 140

 解説コラム 20 漢字の学習構造を改革する 142

 (7) 良質な素材を授業にする① 2001.9 144

 (8) 良質な素材を授業にする② 147

 (9) 良質な素材を授業にする③ 149

 (10) 良質な素材を授業にする④ 152

 解説コラム 21 素材と授業化は別の問題である 154

 (11) 研究の方向性を整理する 2001.11 / 2002.10.10 156

 (12) ことば・言語の原理 158

 (13) 発達段階別「指導のしくみ」メモ 2001.8.20 160

 (14) 授業の方法 2001.11.1 162

 (15) I go to the 山 163

 (16) 学習サイトの構想 165

 解説コラム 22 学び方を学ばせるのが向山型授業である 166

7. 「小さな牛追い」の授業構想と子どもの評論文 167

 (1) 授業構想 168

 解説コラム 23 前代未聞の授業構想図がここにある 170

 (2) 子どもの評論文 172

 解説コラム 24 学習内容が指導内容を凌駕している 188

8. 「母ぐま子ぐま」の指導案と子どものノート 189

 (1) 「母ぐま子ぐま」の初出指導案① 190

 (2) 「母ぐま子ぐま」の初出指導案② 194

 (3) 子どものノート 198

 解説コラム 25 小学生が話者の語りの分析に言及しているという驚愕の事実 201

9. 「山なし」の授業記録 203

 (1) 授業メモ 1976.10 204

 (2) 授業記録 I 1976.10.14 206

 (3) 授業記録 II 1976.10.14 220

 解説コラム 26 言い淀みや言い直しもまた向山学級の息遣いそのものである 234

あとがき この1冊は授業化および更なる研究を待つ素材の宝庫である 長谷川博之 235

特典映像・特典データのご案内

- ・下記の特設ウェブサイトにて、特典映像をご視聴いただけます (ID・パスワードは別途通知)。
<https://mukoyama.tiotoss.jp/>
- ・下記の特設ウェブサイトにて、書籍に掲載できなかった資料データを閲覧いただけます (ID・パスワードは別途通知)。
<https://mukoyama.tiotoss.jp/>

伝説の実践家、 向山洋一の頭の中を垣間見る珠玉の資料

谷 和樹

すごい資料だ。

まず、50ページの「向山型基本システムの整理」に驚いた。国語における「向山型基本システム」である。

「読解」「漢字」「作文」「言語文化」「討論」の5つのエリアがある。例えば、1の読解指導を取り上げてみよう。

- | | |
|----------------|------------|
| ①音読指導 | ⑥説明文指導 |
| ②意味調べ | ⑦要約指導 |
| ③辞書づくり | ⑧分析読解指導 |
| ④文例指導 | ⑨テスト解法指導 |
| ⑤一字・一文読解指導システム | ⑩問題づくり解法指導 |

「分析読解指導」は10個の中の8番目である。⑨の「テスト解法指導」は、それと並んで重要な柱になっている。そもそも「テスト解法指導」を授業している教師はどれくらいいるのだろうか。

向山氏の筆跡から考えて、氏の頭の中にあるものを^{ほぼ}逆らせるように書いた様子が見える。このような内容が頭の中に入っているということなのだ。こうした「全体の枠組み」を教師が持つことがまず重要である。

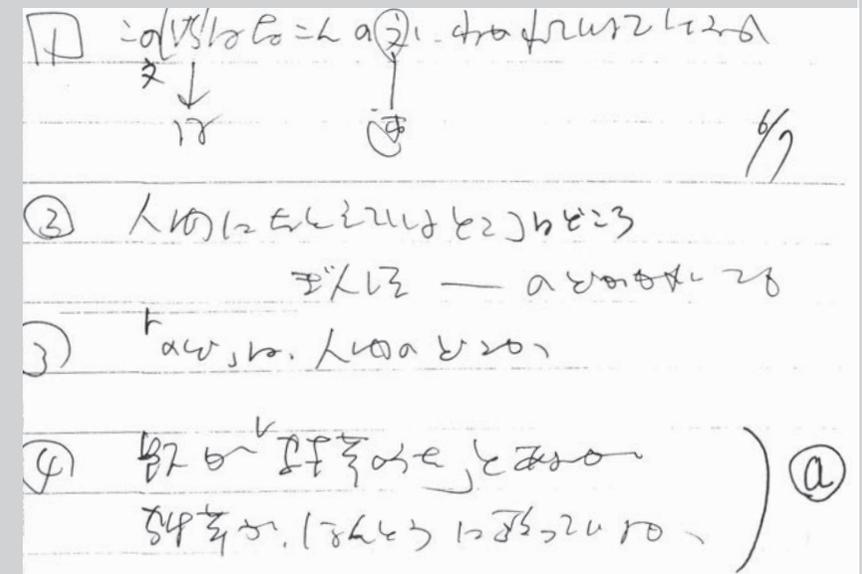
さらに「視点変換作文」「一文指導」「二文指導」「三文指導」や「計算説明」「地図説明」「音声言語指導」などの用語も見える。

現在の令和の教室に必要な「読解力」につながる考え方が、この時点で既に数多く出されているのだ。

他に、おそらくは向山氏が学生時代に講義を受けながら書いたと思われるノート、数々の授業構想ノート、TOSSランド等を構想していた頃のノート等、新旧の氏の国語関係資料が所収されている。

様々な角度から分析できる貴重な資料群である。

【映像解説】 「雑草のうた」の授業



構想ノート 1991.2.9

対比から主題に迫る展開の好例である

長谷川博之

「雑草のうた」を問題づくりという活動を採らず、教師の発問・指示によって授業する際の、向山氏の授業構想であろう。

1. 雑草は何ですか。
2. 一連「それでも平気さ」何に平気なのですか
どうして平気なのですか
3. 二連 同上
4. 三連 同上
5. 誰になりすましているか
6. くり返し……リフレイン
7. 人間のように……ぎじん法
8. 三つの連にくり返して 人はない・それでも平気さ
9. きらきらしながら ② 草は光らない
10. 対比

10の対比について、47ページの資料には右のようである。

すなわち、対比から主題に迫る展開である。

「何を言いたいのか」を考えさせる際、根拠がなければ生産性のない話し合いで終わる。「対比」は明確な根拠になり得るのである。

対比 (1) 花 — 葉っぱ

(2) — — —

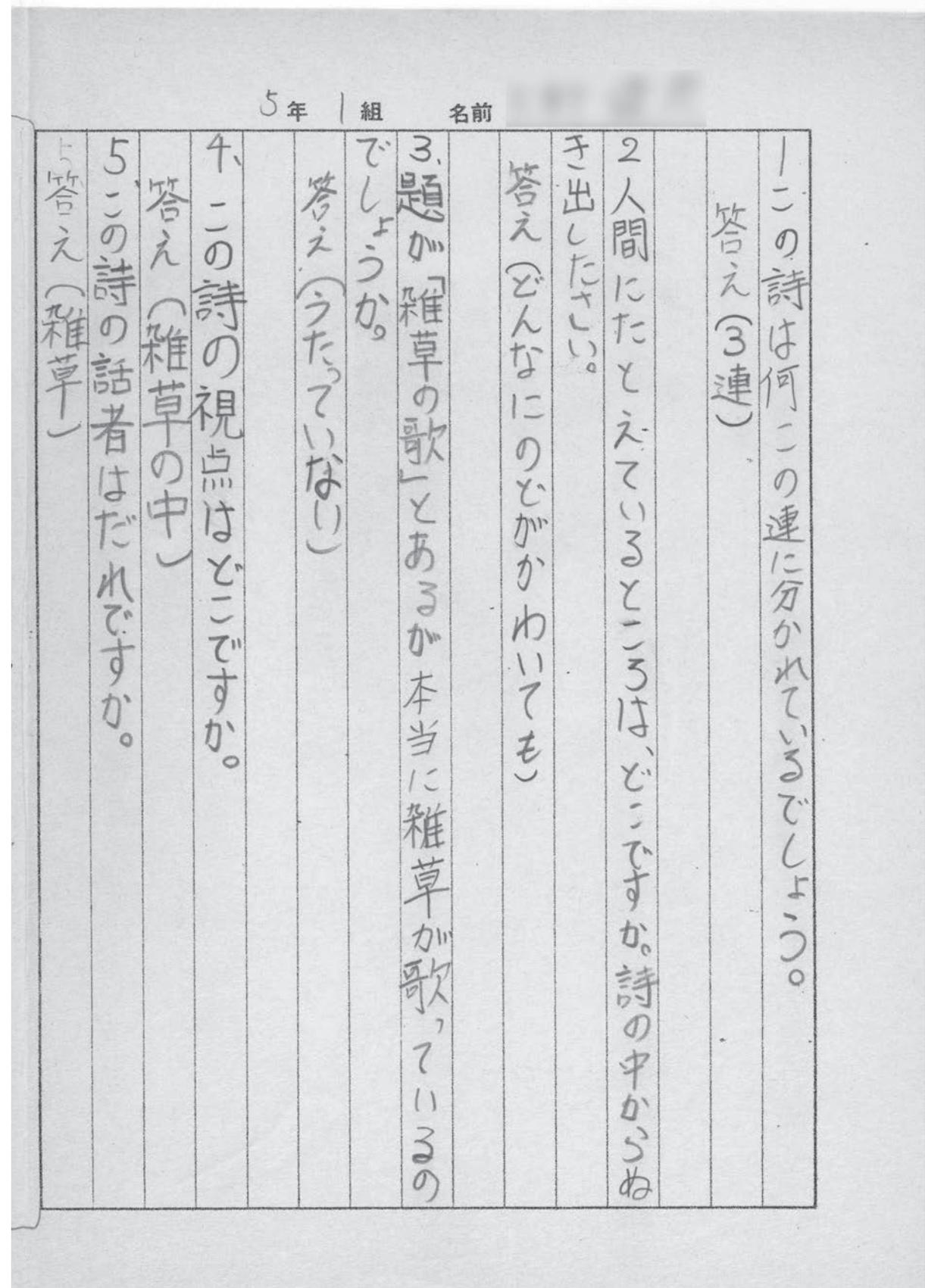
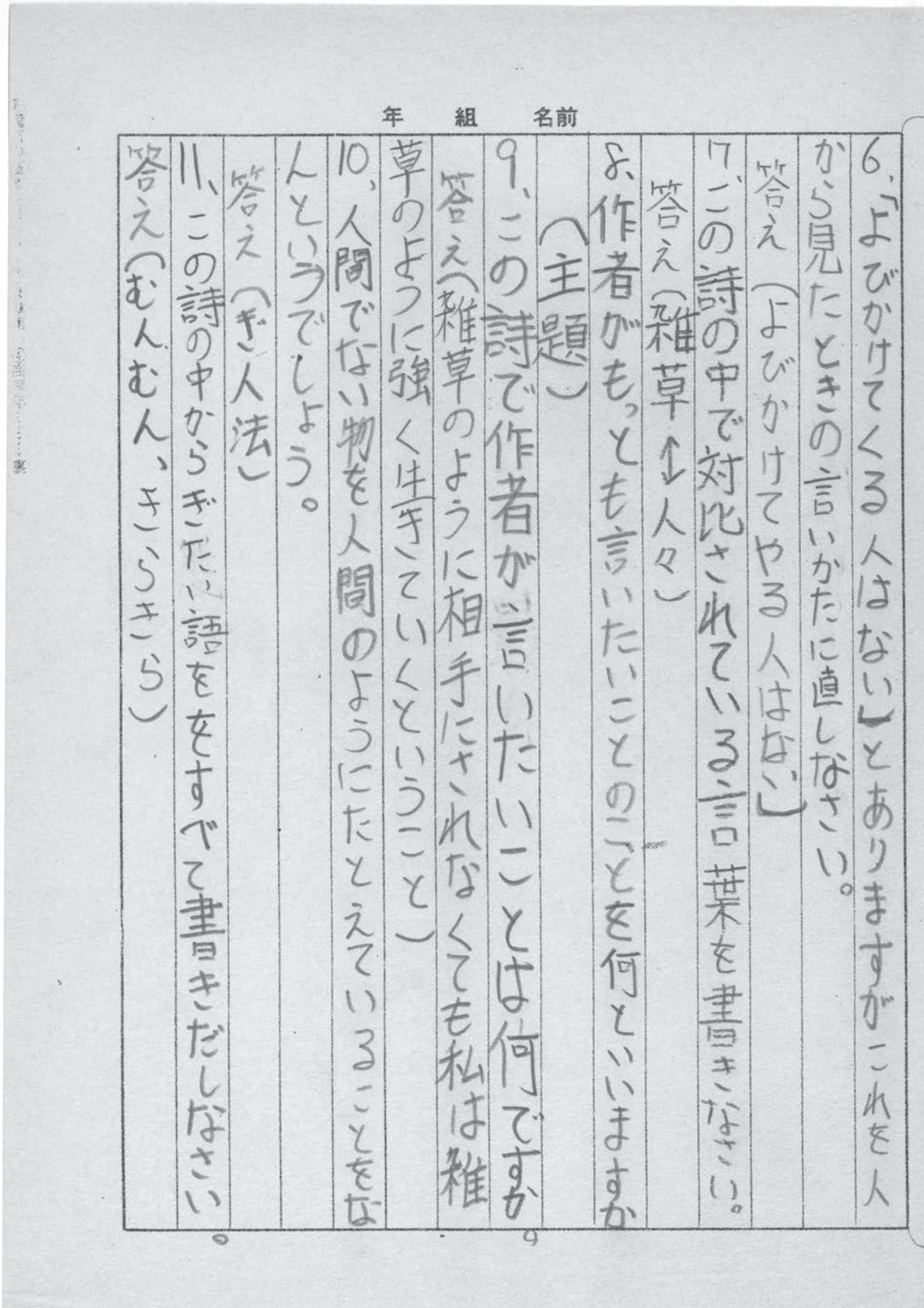
(3) 雑草 — 花

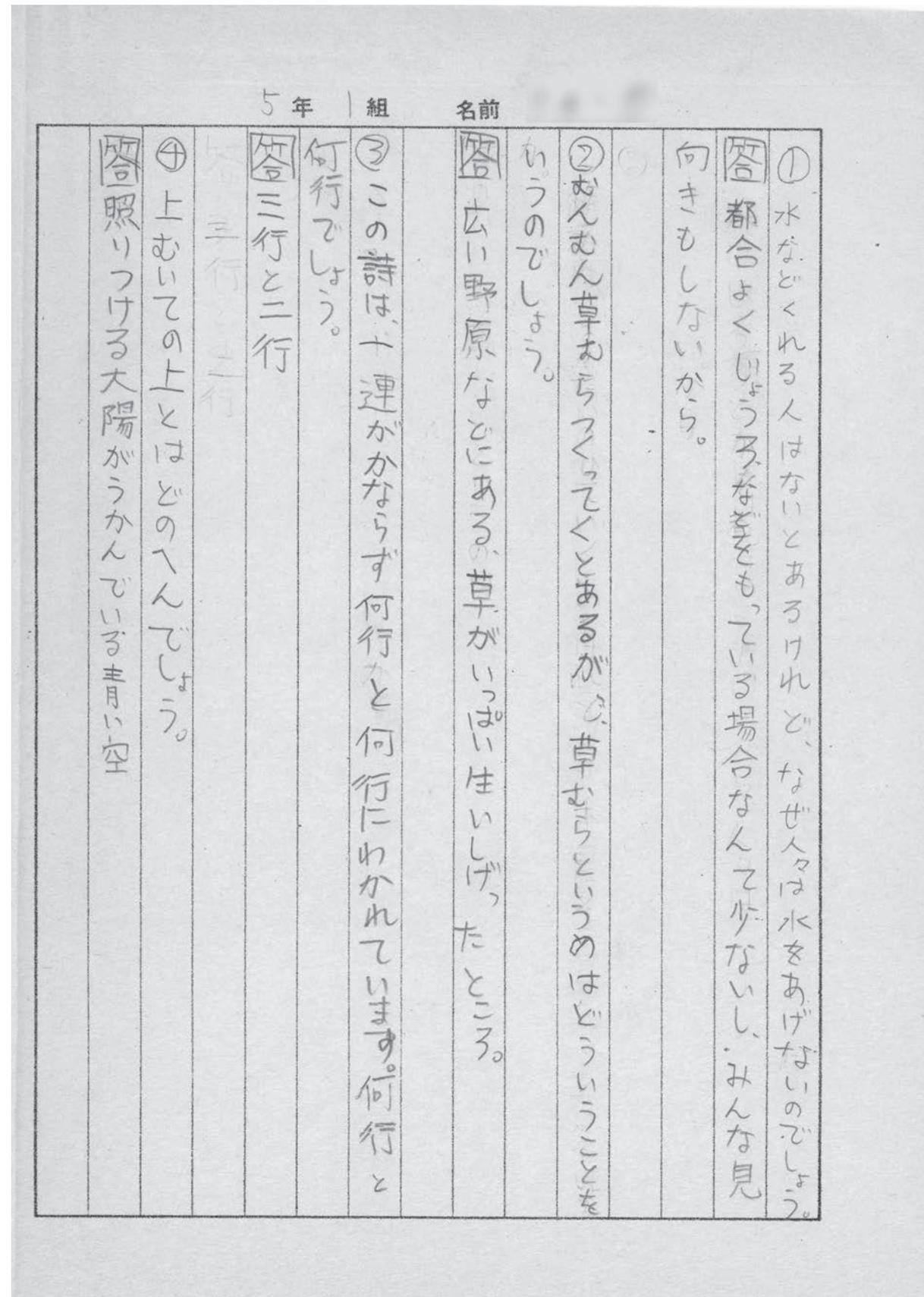
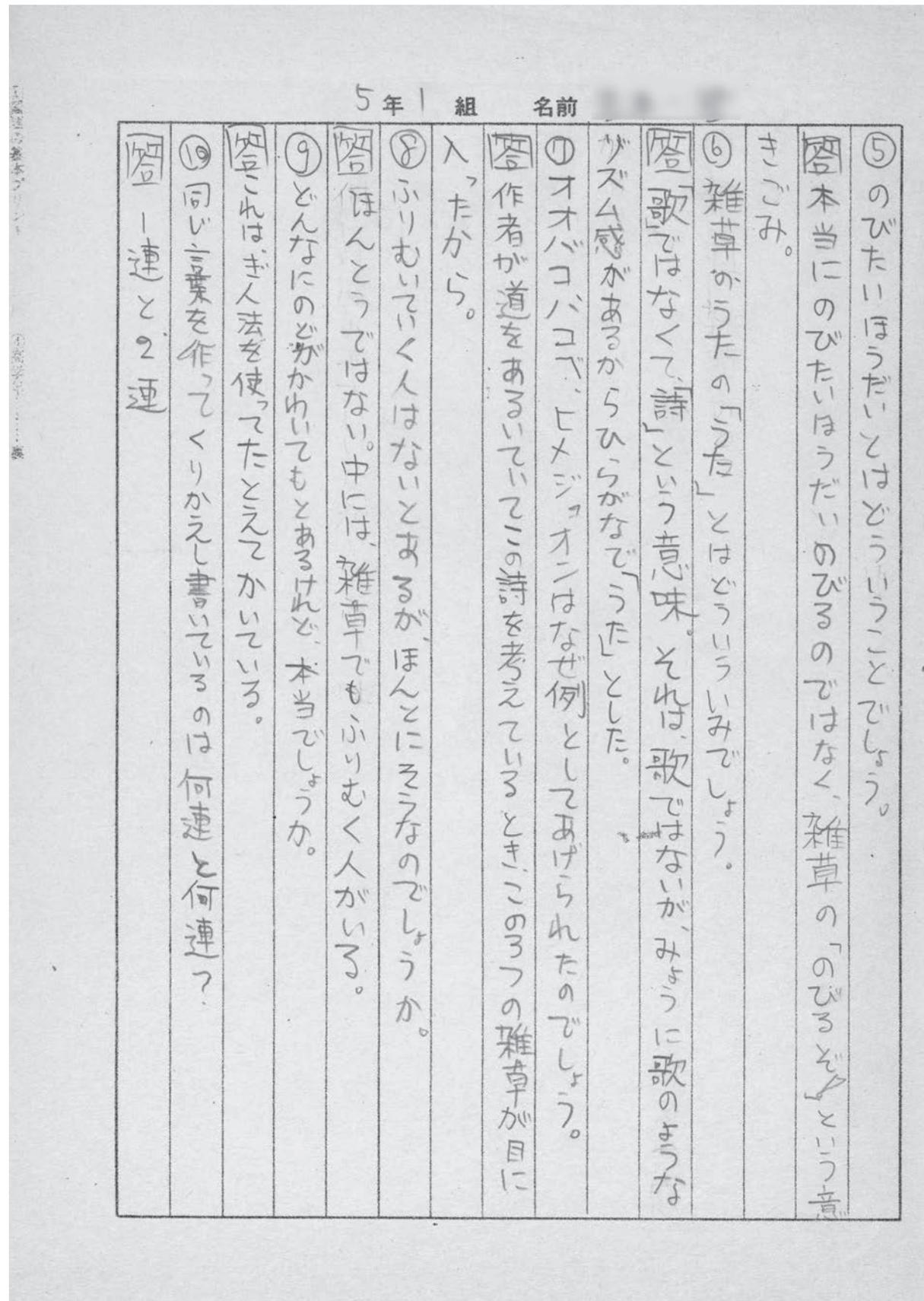
(4) 雑草 — 人

(自分) (人々)

雑草のように相手にされなくても

(私は) 雑草のように強く生きていく





5年1組 名前

Q1 題が雑草のうたですが雑草がほんとうに歌ってるか。
A うたってなく話者が歌ってる。

Q2 第一連の「せっかく花をさかせても」や「せっかく葉ほをひろげても」は、雑草が水のためにやっているのでしょうか。
A 雑草を見てくれる人間

Q3 第一連と3連の「それでも平豆さ」とあるがなんで平豆かそれぞれ書きましよう。
A 1連 むんむん草をみんなでつくるから
2 〃 のびたいほぐだしのびるから。
3 〃 きらきらしながらいきるから

Q4 どうして人間は、雑草をむしるのか
A 雑草がいっしょくけんめい生きとらるのをしらばいから

Q5 この詩は雑草のどんな気持ちからとんな気持ちにかめなのか
A 悲しい気持ちかがんばる気持ち

Q6 この詩の目玉（中心）はどこでしょうか
A 雑草の中

Q7 「せっかくやどんなには雑草のどんな気持ちか」がいられているか。
A 4行以下までまとめたか

Q8 雑草とあるがほんとうはだれのことをいっているのか
A 人間にみてもうれた人かといっしょくけんめい毎日毎日生きていく。

5年1組 名前

雑草のうた

Q1 題が雑草のうたですが雑草がほんとうに歌ってるか。
A うたってなく話者が歌ってる。

Q2 第一連の「せっかく花をさかせても」や「せっかく葉ほをひろげても」は、雑草が水のためにやっているのでしょうか。
A 雑草を見てくれる人間

Q3 第一連と3連の「それでも平豆さ」とあるがなんで平豆かそれぞれ書きましよう。
A 1連 むんむん草をみんなでつくるから
2 〃 のびたいほぐだしのびるから。
3 〃 きらきらしながらいきるから

Q4 どうして人間は、雑草をむしるのか
A 雑草がいっしょくけんめい生きとらるのをしらばいから

Q5 この詩は雑草のどんな気持ちからとんな気持ちにかめなのか
A 悲しい気持ちかがんばる気持ち

Q6 この詩の目玉（中心）はどこでしょうか
A 雑草の中

Q7 「せっかくやどんなには雑草のどんな気持ちか」がいられているか。
A 4行以下までまとめたか

Q8 雑草とあるがほんとうはだれのことをいっているのか
A 人間にみてもうれた人かといっしょくけんめい毎日毎日生きていく。